

# 報告ダイジェスト

- ・虐待防止研修報告 (報告1)
- ・サンシャインダンス大活躍! (報告2)
- ・新通所員・新職員紹介 (報告3)
- ・玉井所長のイタリア訪問記⑥ (報告4)

## 報告1 2024年度虐待防止・身体拘束適正化研修

9月26日(木)に、2024年度の虐待防止・身体拘束適正化研修を実施しました。施設等における利用者への虐待案件については、令和4年度の厚生労働省の調査によれば増加傾向にあります。これは単純に「増えた」という見方よりも、今まで施設内において、閉鎖的で見えにくかった事例が法のもとで表面に出やすくなったという見解が一般的かと思えます。施設の形態を問わず、支援の場が閉鎖的になりやすい福祉の現場にあって、現場に携わる私たちは常に自らの取り組みを客観的かつ謙虚に振り返る必要があります。

### ●今回の研修について

今回の研修は東京都社会福祉協議会の協力を受け、同会の「講師派遣事業」を使わせていただきました。事前打ち合わせから実施までとてもスムーズに運び、大変有意義な研修となりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

### ●当日の様子

今回講師を引き受けてくださったのは、東京YMCA医療福祉専門学校にお勤めの渡邊義昭さんでした。当日の参加者は職員・アルバイトの方々13名。形式は講義とグループワークを組み合わせたもので、私たちばれっとの理念も交えながら、現場のスタッフにもわかりやすい内容でした。グループワークでは「良いサービスとはなにか」「利用者に喜んでもらえるように気にかけていること」など、普段はあまり話しをする機会の無い現場の職員同志で意見を交わす良い機会となりました。

### ●感想

今回参加できなかった職員・アルバイトには後日録画を見ていただき感想を集めました。当日参加した方を含めて抜粋してご紹介します。

『初めは志のある人も環境によって知らず知らずのうちに虐待をしてしまうようになってしまうというお話がとても印象に残っています。風通しの良い環境を整え、孤立する職員などが生まれない様にしていきたいと感じました。』

『支援の仕方について言葉では簡単に表現できるが、それがその時の状況や場面などで実際に支援として出来るかどうかはイコールではないと言う今後の課題が残りました。』

『グループワークで、表情やしぐさから思いを読み取るようにしている、との発言が多々聞かれました。私も同じように感じていましたが、ふと、「これって主観が入ってしまう余地がかなり大きいのでは？」と不安になりました。』

『疑問に思っている点は、他の職員や自分がその対応は違うのではないかと思った場合に、いい改善方法は何かということです。(中略)忙しかったり、言うことを躊躇してしまったりすると、なかなか改善されないまま自己流になってしまうのではないかと思います。』

『スピーチロック(※)という言葉は今回初めて知りましたが、言葉の置き換えなども含めて、利用者さんがホームで安心して過ごせるよう、適切な支援を努めて参りたいと思います。』

学びの多い研修となりました。皆で力を合わせて今後の支援に活かしていきます。

(事務局長 南山達郎)

## 報告② サンシャインダンス～輝くステージ出演～

この秋、たまり場ぱれっとのクラブ活動「サンシャインダンス」が2つの大きなステージに立ちました。初めての出演となった秋葉原でのイベントと毎年出演させてもらっている、恵比寿文化祭の様子をお伝えします。

### ●TOKYOパラスポーツFORWARD

9月22日(日・祝)JR秋葉原駅から徒歩5分ほどにある、会場(ベルサール秋葉原)にてパラスポーツイベントが行なわれました。そのオープニングステージにプロのダンサーの方や手話ダンスを披露するパフォーマーの方々と一緒に、サンシャインダンスメンバー8名が出演をしました。

このイベントへの参加は初めてで、いつもダンスを教えて下さっている宮田先生(スタジオフェイス代表)のご紹介で出演する運びとなりました。秋葉原の電気街中心にあるビルの1階、イベントスペースでの開催とあり、当日はたくさんの観客に囲まれた賑やかなステージとなりました。

### ●初めての試み

今回のステージは、プロDJの音楽のもと3団体合同でのパフォーマンスを披露しました。今までサンシャインダンス単独での出演はしてきましたが、他のパフォーマーと一緒に踊ることは初めてで、より緊張感や楽しさを味わえました。本番に向けて、何度か合同での練習(リハーサル)を行なったのもいい経験となりました。

当日は会場に何台ものカメラが設置されていて、パフォーマンスの様子を大きなモニターにて映し出されていました。そんなことに物怖じすることなく、サンシャインダンスメンバーはソロのパートでも、お客

かがやしゅつえん様やカメラにアピールするなど、本領を発揮していました。最後に会場に来てくれた観客の皆さんも一緒に手話のダンスを踊り、一体感に包まれたイベントのオープニングステージとなりました。宮田先生をはじめこのような機会をご提供くださった皆様、ありがとうございました。

### ●恵比寿文化祭2024

今年は、10月12日(土)、10月13日(日)に恵比寿ガーデンプレイスにて開催されました。恵比寿文化祭とは、『恵比寿の新たな一面に出会える、まちのみんなの文化祭。恵比寿に出会える、まちのみんなの文化祭。恵比寿に住む方、働く方、学ぶ方が、趣味や仕事、取り組んでいる活動などを持ち寄り、まちの人に共有するイベントです』(出演者募集要項より引用)。ぱれっとは、2013年からダンスパフォーマンスやおかし屋ぱれっと・工房ぱれっとの出店で関わっています。ダンス本番当日は秋晴れのいいお天気のもと心地良いパフォーマンスを披露することができました。演目後ステージ上での団体紹介インタビューでは、出演したメンバー全員が感想や自己紹介をし、今後の意気込みなども語りました。

### ●今後の活躍も乞うご期待!!

サンシャインダンスは、現在13名で日々練習に励んでいます。新しいメンバーも増え、より賑やかになりました。ダンスステップも徐々に難易度が上がり、本格的なヒップホップダンスパフォーマンスに磨きがかかっています!今後の出演も楽しみにしててください♪

(たまり場ぱれっと 武井琴美)

※当日の写真は表紙に掲載されています

玉井所長の

## 報告4

## イタリア訪問記⑥～ラボラトリオ ザンザーラ～

昨年11月に訪れたイタリア視察の中から、今回は障がいのある人が働くデザイン工房「ラボラトリオ ザンザーラ (Laboratorio Zanzara)」を紹介いたします。

## ●設立の背景は…

イタリアは1978年に世界で初めて精神科病院を廃止し、地域社会の中で精神障がいのある人の回復を支えるための法律(通称バザーリア法)が作られた国です。ザンザーラはそれに基づき、1998年に精神障がいのある人とデザイナー、ソーシャルワーカーが共同で、イタリア北部の都市トリノの中心街に立ち上げました。アクセスのしやすさと、街の人たちに見守られながら過ごせる環境からこの場所を選びました。現在は精神障がい、知的障がいのあるメンバーが18名通い、「デザイン」を仕事にしています。今回は立ち上げメンバーの一人であるデザイナーのジャンルカさんにお話を伺いました。



## ●「ザンザーラ」の意味は…

「ザンザーラ」はイタリア語で「蚊」の意味です。あるメンバーが描いた「蚊」の絵をいたく気に入り、取るに足らない小さな存在かも知れないが確かに存在するものとして、自分たちの存在に重ねて名付けたと言います。この例のように、ザンザーラで生み出される製品は全て障がいのある人たちが出発点となっており、彼らのつぶやいた言葉や描いた文字、絵を、質の高いデザインで社会に接続し彼らの仕事につなげていきます。発想の出発点を彼らに据えるのは、彼らの尊厳に関わることだと自覚しているからです。

## ●どんな特徴があるのか

ザンザーラは路面から大きなショーウィンドウでショップ兼工房を覗くことができます。広々とした店内にはTシャツやバッグ、ベビー用品等のアパレルから、文房具やポスター、そして大き

な張り子のオブジェたちが多数並んでおり、そのどれもが洗練されたデザインながら、手描きの原画が持つユニークな線や大胆な構図が何とも楽しい気分させてくれます。ショップを訪れた人が誰でも何か買えるようにと、鉛筆1本から1万円を超えるようなオブジェまで幅広い価格帯の商品を揃えています。そして商品に惹かれて来店した人が、同じ空間で作業をする人たちの様子を奥まで見渡せるようになっています。実際に私たちが訪れた際も、原画を描いているグループ、張り子を製作するグループ、パソコンでデザイン編集や事務を行なう人たちがそれぞれの持ち場で作業をしているのを見ることができました。斜め向かいの建物にはシルクスクリーンや梱包のための作業場兼倉庫があり、小さく区切られたスペースとやや落ち着いたトーンの照明という対照的な環境となっており、それぞれが居心地の良い場所を選べる配慮が伺えました。

ここは個人的な“作品”を作る場ではなく、ラボの“製品”として複数人の力を合わせて成果物を完成させ「自分の力もこの中に入っている」と実感を持てるような場になっているそうです。メンバーも代表もデザイナーも垣根なくゆるやかに空間を共有していることにも、その根底にある共同制作の理念がにじみ出ていました。

## ●スタッフの情熱と柔軟性に支えられ

スタッフたちはデザインや社会福祉など皆高い専門性や技能を持っていますが「専門性だけでその人(障がいのある人)と付き合わない。人間力や人間らしいところで付き合うのがプロフェッショナル」だと言います。バザーリア法を地域レベルで実践する際には、福祉の中だけに障がいのある人を閉じ込めない、専門的人材や家族の中だけで人間関係を完結させない、普通の社会の中で普通の人として受け止める…これらの大切さを改めて感じた訪問になりました。

(おかし屋ぱれっと・工房ぱれっと所長 玉井七恵)